

# 令和5年度授業改善推進プラン

- (取組内容)
- ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
  - ・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
  - ・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

## 数学科B

### ★教科・観点について

学力向上のための調査・期末テスト及び学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。 <○成果 ▲課題>

観点	1 学期			2 学期			3 学期
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析（授業改善・評価）	具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
知識・技能	1年	○正負の数・文字式・方程式の簡単な計算を理解している。 ▲分数を含む式の計算に課題がある。	・授業の開始時にふりかえりの時間を設定し、ホワイトボードを活用することで、一人一人が知識・技能を定着するための時間を設定する。 ・定期的に宿題を出すことで、学力の定着を図る。	1年	○比例と反比例・平面図形の基礎的な知識や計算技能を習得している。 ▲複合的な図形の移動に課題がある。	・定期考査後に、テストの復習を兼ねた数学レポートを作成する。 ・基礎的、基本的な学力を定着させるために、小単位ごとに復習テストをする時間を設ける。課題がある生徒に対しては、個別に指導をすることで、全ての生徒の基礎学力の定着を目指す。	・ワークの取組方法や学習方法、ノートの書き方など、年度当初に丁寧な学習指導を実施する。 ・授業の導入時にホワイトボードを活用した1問1答の復習を行い、基礎学力の定着を目指す。 ・小単位ごとに確認テストを実施することで、基礎学力の定着を目指す。
	2年	○式の計算・連立方程式の簡単な計算を理解している。 ▲カッコや分数を含む式の計算に課題がある。		2年	○図形の基本的な性質を理解している。 ▲重要な用語の意味理解に課題がある。		
	3年	○多項式・平方根・2次方程式の簡単な計算を理解している。 ▲平方根と多項式の融合問題に課題がある。		3年	○2乗に比例する関数・相似な図形・円の基本的な知識や計算技能を習得している。 ▲円周角の定理の利用に課題がある。		
思考・判断・表現	1年	○文章を読み、方程式に表して解を求めることができる。 ▲文字式を活用する力に課題がある。	・単元のまとめの際に、高校入試の過去問等の発展的な問題を解く時間を設定することで、様々な問題に触れ、思考力を高める。 ・プリントを作成し、発展的な問題を繰り返し解くことで、基礎学力を活用する場面を設定する。	1年	○数学的な事象から、関数を見出し、式や表、グラフに表すことができる。 ▲歯車の問題を処理する力に課題がある。	・課題解決型学習を取り入れ、グループ学習や教え合う活動を通して、思考力、判断力、表現力を高めさせる。 ・視覚的に捉えることができる教材など、教材を工夫することで、数量や図形の関係が理解しやすいように工夫をする。	・数学的な考え方の表現の仕方やまとめ方、グループワークの進め方などを年間を通して指導をする。 ・課題解決の場面で、自分の考えを発表する時間を設定し、表現力の向上を目指す。 ・学習内容を身の回りの事象と関連付けた教材を開発し、創意工夫ある学習指導を実践する。
	2年	○式の性質を文字を用いて説明することができる。 ▲連立方程式の文章題において、立式する力に課題がある。		2年	○三角形の合同条件を用いて2つの図形が合同であることを証明することができる。 ▲図形の性質を証明する力に課題がある。		
	3年	○一般的な文章題を解く力が定着している。 ▲身の回りの事象に数学的な考え方を活用する力に課題がある。		3年	○三角形の相似条件を用いて2つの図形が相似であることを証明することができる。 ▲複合図形の比を求める力に課題がある。		
主体的に学習に取り組む態度	1年	○意欲的に発言し、課題へ粘り強く取り組む。 ▲副教材の活用の仕方が効果的でない。	・授業で発言する場面を設定するために、グループワークやペア学習などを取り入れることで、仲間と協力しながら解を導く経験を積ませる。 ・ジグソー学習など、創意工夫ある授業を展開する。	1年	○ICT等を活用しながら、探究活動やグループ学習ができた。 ▲提出物の提出状況に課題がある。	・全ての生徒の可能性を引き出すために、ICTを指導に生かすことで、個別最適な学びと協働的な学びの場を授業の中で設定する。 ・探究的な学習活動ができるように発問を工夫することで、主体的、対話的で深い学びの実現を目指す。	・数学レポート作成の課題や、基礎学力コンテストの実施を通して、生徒の主体的な学びにつながる機会を与える。 ・ICTを活用することで、個別最適な学びができる授業展開にする。 ・発問を工夫することで、生徒一人一人の学びが深まる学習活動の授業実践を行い、数学の有用性について感じさせる。
	2年	▲授業で発言する生徒が限られている。		2年	○ICT等を活用しながら、探究活動やグループ学習ができた。 ▲言語力に課題が見られる。		
	3年	○意欲的に発言し、課題へ粘り強く取り組む。 ▲宿題忘れが多い。		3年	○ICT等を活用しながら、探究活動やグループ学習ができた。		
研修課題（キャリア教育に関連した教科としての取組）	研修課題に対する教科としての具体的な実践方法		1 学期の成果と課題	1 学期の結果を踏まえた具体的な実践方法及び追加内容	2 学期までの成果と課題	1 年間の成果と今後の課題	
・生徒の主体性を育む授業 ・地域や小中との連携を生かした取組	・生徒が主体的に取り組めるように、身の回りの事象を学習内容と結び付けて、意欲を掻き立てる授業を展開する。 ・小学校の教員と算数・数学の学習指導に関する情報交換を行う。		○生徒がわかりやすいと感じる授業を展開することができた。 ▲ICT機器を活用して学びを深めることができなかった。	・ICTの活用を取り入れることで、個別最適な学びの場を設定した。 ・グループワークを多く取り入れることで、生徒が多様な考え方に触れることができる時間を増やした。	○ICTを活用することで、生徒が自分に合った学習法で学習を進めることができるようになった。 ▲地域や小中との連携を生かす取組ができていない。	ICTの活用を行ったことで、個別最適な学びができる授業を展開することができた。今後は三根小学校と連携しPadlet等のアプリを活用した授業実践を行う。	